

広島県 公立高校の入試制度

【2022年度版】

選抜概要

- 広島県の公立高校入試は選抜Ⅰ(推薦)と選抜Ⅱ(一般)があります。

	出願期間	志願変更	入試日	合格発表日
選抜Ⅰ(推薦)	1/20(木)~25(火)	-	2/3(木)	2/8(火)
選抜Ⅱ(一般)	2/15(火)~18(金)	2/21(月)~24(木)	3/7(月)・8(火)	3/15(火)

- ・ 出願は1校1学科のみ。ただし同一校内の普通科と普通科のコースは併願可。選抜Ⅱは一部の学科で第3志望まで認める場合もある。
- ・ 通学区は全県一円です。なお、広島市立高校(コースを除く)については、広島市内となります。

選抜(Ⅰ)推薦

選抜(Ⅰ)は推薦入試です。全日制のほとんどの学校で実施されます。入学定員に対して20%~50%以内の人数を募集します。

(コース制でない普通科：20%，1学級しか募集しない普通科：30%，その他：50%)

- ・ 選抜(Ⅰ)で合格となった場合は、期日までに入学確約書を提出する。
- ・ 合格とならなかった場合は選抜(Ⅱ)を受験できるが、新たに出願手続きが必要。

選抜(Ⅰ)は下記の資料を総合的に判断し、合格者を決定する。

面接	志願者全員に対して行う。
推薦書・志望理由書	出願には中学校長の推薦が必要。また、志願者本人の志望動機・理由を記入し提出する。
調査書	9科の評定(5段階で記入)，観点別学習状況，特別活動の記録，総合的な学習の時間の記録，他の記載事項も資料として活用する。 2学期末現在の記録で作成。 (2学期制の場合は12月末現在)
学校独自の選抜	必要に応じて学校が自由に決めることができる。 小論文試験を課す学校が多い。専門学科で実技，英語系の学科で英語面接など。

選抜(Ⅱ)一般

選抜(Ⅱ)は全ての学科・コースで実施されます。入学定員から、選抜(Ⅰ)の合格者を減じた人数を募集します。

●出願

- 出願は1校1学科。(Ⅰ)同様、同一校内の普通科と普通科のコースは併願可。また、一部の学科では同一校・学科内で第3志望まで認める場合もある。

●学力検査

- 一般学力検査(共通問題)を2日間で行う。国・社・数・理・英の5教科、各50分。
- 1教科50点満点だが、2教科以内、2倍以内で傾斜配点が可能。
- 高校が独自に作成した問題を実施することもできる。実施方法は、A.一般学力検査に加えて実施、B.当該教科を置き換え。
- そのほか、必要に応じて面接または実技検査を行うことができる。

選抜資料(Ⅱ)

選抜(Ⅱ)は下記の資料を総合的に判断し、合格者を決定します。

●学力検査の得点

- 学力検査の得点に2分の1をかけた得点を用いる。
※一般学力検査 $5 \times 50 \times 1/2 = 125$ 点満点 が基本。

●調査書

- 評定は9教科5段階3学年分(副教科は2倍)を130点満点に換算する。
 $\{(5科 \times 5 \times 3) + (4科 \times 5 \times 3) \times 2\} \times 130 / 195 = 130$ 点満点
- 評定の他に、観点別学習状況、特別活動の記録、総合的な学習の時間の記録、他の記載事項も資料として活用する。
- 2/7現在の記録で作成。

●面接、実技検査の結果(実施した場合)

学力検査と調査書はほぼ同等に評価しますが、入学定員の20%以内で比重を変えて判定を行うことができます。何をどの程度重視するかは各校で決定します。

高等学校名	学科【コース】	選抜(Ⅱ)										選抜(Ⅲ)			
		一般学力検査 傾斜配点の 教科(倍率)	一般学力検査と調査書の活用方法								受検者 全員 面接		実技 検査	自校作成問題 教科 実施方法	
			A(一般学力検査の成績)を重視		B(調査書の学習の記録)を重視		AとBをほぼ同等		AとBをほぼ同等						
学力:調査書	定員枠(%)	順位	調査書:学力	定員枠(%)	順位	順位	順位	順位	順位						
広島国泰寺	普通	数学・英語(2倍)	8:2	20	2					1					○
	普通【理数】	数学・英語(2倍)	8:2	20	2					1					○
広島市立基町	普通		9:1	20	2					1					○
	普通【創造表現】											○			○
広島市立舟入	普通	数学・英語(2倍)	8:2	20	2					1					○
	普通【国際コミュニケーション】														○